



第125号
野毛山幼稚園
横浜市西区老松町30
TEL045-231-0150

祈りに支えられた一年

野毛山キリストの教会牧師
野毛山幼稚園園長 奈良昌人

いつも喜んでいなさい。
絶えず祈りなさい。

どんなことにも感謝しなさい。

(テサロニケの信徒への手紙 1 5章16〜18節)

1月のある朝、教育館の玄関でサーモカメラの映像を見ながら子どもたちを迎えていると、年長の女の子が「神さまに渡していただけますか」と、四つ折りにした紙を私に差し出しました。「えっ」と思っ「聞き返すと「神さまに」と言っています。「神さまに手紙…」少し考えて、「分かった、神さまに渡すね」と答えて手紙を預かりました。失礼かと思いましたが開けてみますと、「かみさまへ だいすきだよ♡ いつもまもってくれてありがとう☆」と書かれています。新型コロナウイルスの感染急拡大により、閉塞感に支配されそうな時でしたので、神さまへの素直な信頼の言葉に涙が出るほどに感動しました。ともすると、目の前の現実のことで右往左往してしまう自分

身に気づかされ、神さまに信頼できるように祈りました。神さまへの手紙：それはお祈りと同じです。

ある朝の先生たちの祈禱会で、当番の先生が祈った祈りを紹介しますので、祈る思いで目を通してください。

「愛する天の神さま、あなたの尊い聖名を賛美いたします。今日も新しい朝をいただき、賛美と祈りのひとときが与えられた日々に感謝いたします。感染拡大により日々状況が変わり、これまでとは異なる事態にも直面しております。子どもたちやご家族の安全を第一に考えながらも、残り少ない3学期のこのとき、予定変更や休園に心苦しさをおぼえ、葛藤し思い悩むことも多くある私たちです。どうぞ神さまと共にいてカづけ、道を示してくださいませように。そのような中、先週土曜には年長組でのげやまミュージアムを行いました。卒園間近となったアネモネ組さんにとって、お話しながらじっくりご覧いただけたり、お父さん方にもお越しいただけたりと、大変貴重で豊かなひとときとなりましたことを感謝いたします。開催が延期されましたコスモス組、スイトピー組も、今週楽しみに来園することと思います。一つひとつがあなたにとって守られ、喜びあふれるものとなりますようにお導きください。家庭で過ごしております年少スイトピー組、また幼稚園に思いを寄せながら自主休園しているご家庭、自宅待機しておられます先生方の上に、あなたのお守りが豊かにありますように。また、療養中のご家庭の上には

あなたの特別な慰めと癒しの御手をお与えください。この小さな祈り、尊き主イエス・キリストの聖名によって御前におさげいたします。アーメン。」

新型コロナウイルスに翻弄されて丸2年。コロナ禍での3回目の年度末を迎えています。それぞれの学年のまとめの時期ではありますが、突然の休園や学年閉鎖など、子どもたち、保護者の皆さん、幼稚園職員皆が初めて経験する事態に驚き戸惑いながらも日々を歩めますことは、創造主なる神さまへの信頼に基づくこのような祈りに支えられてのことと確信しています。幼稚園は非日常の日常があるところであり、たくさんの同年代の子どもたちの集団生活という、家庭の日常にはない楽しみや喜びのほか、時に悲しみや寂しさ、怒りなどを経験する、子どもたちが成長するためにはなくてはならない場所です。そして大事なことは、幼稚園には子どもたちを愛情たつぷりに受け入れる、祈りに支えられた先生たちがいるということ。冒頭の聖書の言葉は、この人がいなければ、キリスト教はこの世になかったであろうと言われる伝道者の使徒パウロがテサロニケの教会の人たちに書き送った手紙の言葉です。いつも喜び、絶えず祈り、何事にも感謝する。つまり、どのような時も目には見えませんが確かに祈られる神さまに目を向けて歩むことが大事なことです。これからも祈りつつ歩んで参りましょう。